

# 2011年3月期 第1四半期 業績の概況

- 連結決算の概観
- 主要製品の売上高
- 開発品パイプラインの状況

## 参考資料

- ・ 2011年3月期第1四半期 セグメント情報
- ・ 2011年3月期第1四半期 業績の状況(連結)
- ・ 主な子会社の業績と予想

2010年7月30日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社



# 2011年3月期第1四半期 決算概観(連結)



単位:(百万円)

	08年3月期 第1四半期	09年3月期 第1四半期	10年3月期 第1四半期	11年3月期 第1四半期	前年比
売上高	21,891	20,756	23,289	24,655	5.9%
営業利益	4,082	995	3,156	2,216	△29.8%
経常利益	4,321	1,228	3,417	2,421	△29.2%
当期純利益	2,600	540	1,976	1,799	△9.0%

11年3月期 第2四半期 予想	前年比	11年3月期 通期予想	前年比
46,500	1.7%	100,300	0.5%
2,500	△45.3%	12,700	△4.2%
2,900	△43.9%	13,400	△5.9%
1,700	△48.4%	8,500	△3.9%

## 11年3月期第1四半期 連結業績(実績)

### <対前年>

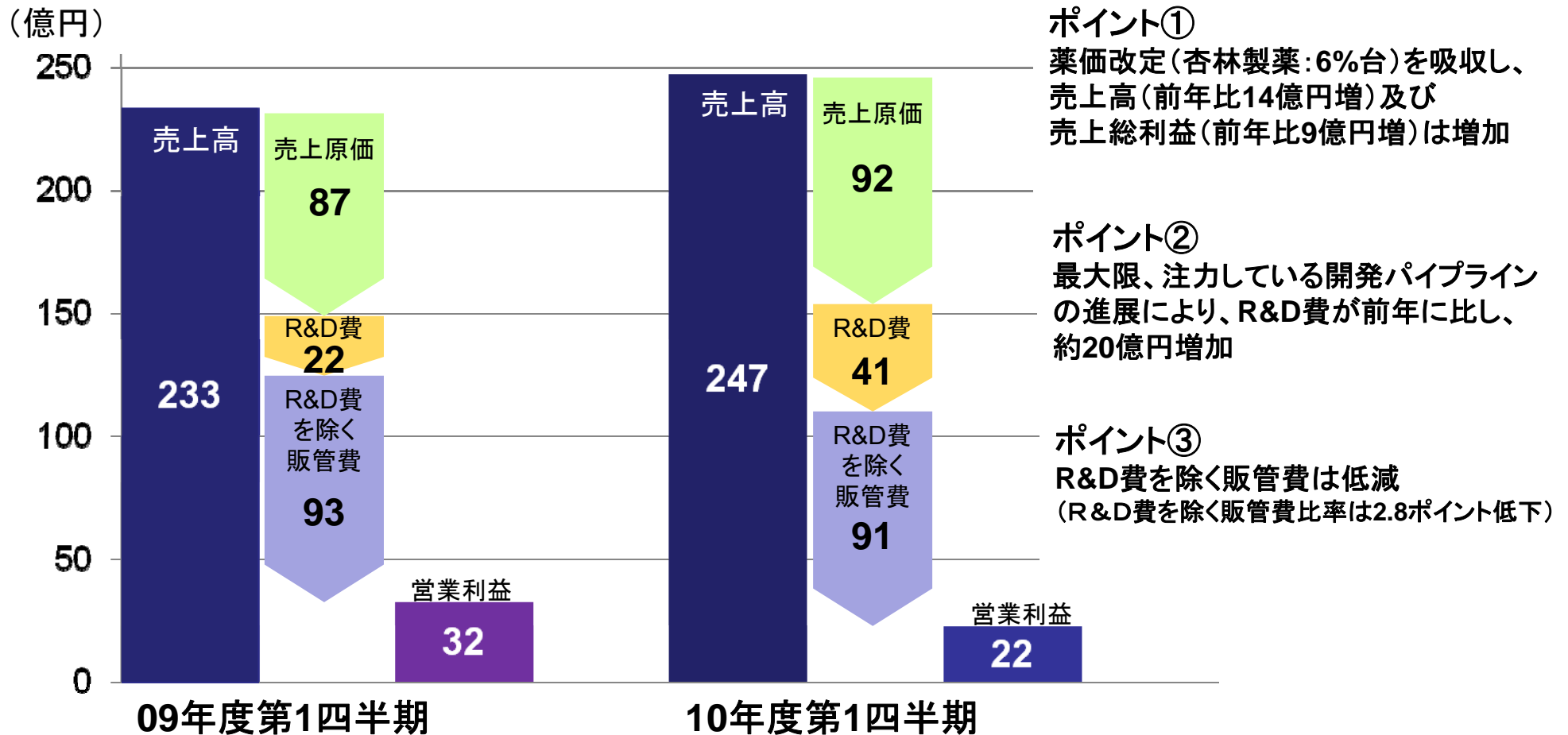
【売上高】医療用医薬品で薬価改定が実施されましたが、国内新医薬品はその影響を吸収し前年を上回る実績を達成し、後発医薬品も伸長致しました。その結果、連結売上高は246億円(前年比5.9%増)となりました。

【利益】売上増加に伴い売上総利益は増加しましたが、研究開発費の増加(前年比89.3%増)により、営業利益は22億円(前年比29.8%減)、当四半期純利益は18億円(前年比9.0%減)となりました。

## 11年3月期 連結業績(予想)

2010年5月11日に公表しました第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、現段階では変更いたしません。(第2四半期予想に対する進捗度 売上高:53.0% 営業利益:88.6%)

# 2011年3月期 第1四半期 業績のポイント



# 2011年3月期 第1四半期 業績の状況

単位: 億円

	10年3月期 第1四半期 (実績)	11年3月期 第1四半期 (実績)	対前年
売上高(合計)	233	247	+14
医薬品事業	225	240	+15
◆新医薬品	195	208	+13
○国内	189	202	+13
○海外	6	6	+0
◆後発医薬品	18	21	+3
◆一般用医薬品他	12	10	△1
ヘルスケア事業	8	7	△1
◆スキンケア	8	7	△1
営業利益	32	22	△9
経常利益	34	24	△10
当期純利益	20	18	△2

(注1) 上記内容は簡便的に前年実績を組み替え、当第1四半期連結累計期間の実績と比較しています

(注2) 当第1四半期のセグメント【ヘルスケア事業】に属する製品・サービスの内容は、2010年3月期決算までの開示内容と異なっております

			対前年
■売上高	247億円		(+14)
◆医薬品事業	240億円		(+15)
●国内新医薬品	208億円		(+13)
		10.3(1Q)実績	11.3(1Q)実績
・キプレス		66	⇒ 74 (+8)
・ムコダイン		51	⇒ 56 (+5)
・ペンタサ		48	⇒ 50 (+2)
・ウリス		8	⇒ 13 (+5)
●海外新医薬品	6億円		(+0)
・ガチフロキサシン		6	⇒ 5 (△1)
●後発医薬品	21億円		(+3)
*重点商品等の売上増加			
●一般用医薬品他	10億円		(△1)
◆ヘルスケア事業	7億円		(△1)
●スキンケア	7億円		(△1)
■営業利益	22億円		(△9)
◆営業利益率は9.0%と4.6ポイント低下			
●原価率は横ばい			(37.2%⇒37.2%)
上昇要因: 薬価改定			
低下要因: 原価率の低い自社製品の売上増加			
キョーリン リメディオの原価率低下			
●研究開発費率: 前年比7.4ポイント上昇			(9.4%⇒16.8%)
*22億円⇒41億円(約20億円増加)			
開発パイプラインの進展(KRP-108 Ph2b終了)			
●販管費率(除R&D費): 前年比2.8ポイント低下			(39.8%⇒37.0%)
低下要因: 一般経費の抑制			
■当期純利益	18億円		(△2)

# 主要製品の売上高について

(単位: 億円)

製品名		中間期		通期		第1四半期(4月～6月)				
		09年度実績	10年度予想	09年度実績	10年度予想	09年度実績	10年度実績	前年比	中間進捗率	通期進捗率
国内 新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤 気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	127	137	292	314	66	74	11.6%	54.1%	23.5%
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	93	95	209	214	51	56	9.5%	58.3%	26.0%
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	97	98	194	201	48	50	3.2%	50.7%	24.7%
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	16	22	37	51	8	13	58.3%	57.3%	24.8%
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害改善剤)	23	22	46	40	11	10	△10.8%	45.9%	25.4%
海外 新医薬品	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	11	10	22	13	6	5	△9.7%	50.3%	39.8%
一般用医薬品	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	10	10	19	21	5	5	△2.6%	44.3%	22.1%

ガチフロキサシンはライセンサー向けのバルク売上とともに、ライセンサーの販売に応じたランニングロイヤルティを含んだ売上を計上いたしております

# 開発品一覧①(2010年7月30日現在)

Ph II ~ 申請中

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph III (09年12月)		ペンタサ錠	潰瘍性大腸炎	フェリング社	寛解期潰瘍性大腸炎を対象とした新用法用量 (1日1回投与)	
Ph II (05年3月)	エーザイ: Ph III	AS-3201 (錠)	糖尿病合併症 治療剤	大日本 住友製薬	アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細 胞内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病性神経障 害を改善する	・大日本住友製薬と 共同開発(国内のみ) ・Ph II b(07年9月)開始
Ph II (08年2月)	Ph II (07年9月)	KRP-104	糖尿病治療剤	自社	DPPIV阻害剤。インスリン分泌ホルモンの分解を抑 えることにより血糖低下作用を示す。副作用の発現 が少ない糖尿病治療が期待される	・海外Ph II b開始 (09年11月) ・国内Ph II b終了 (10年3月)
Ph II (08年8月)	(米国) アボット: 申請中 (09年3月) (欧州) ムンディファーマ : 申請中(10年3月)	KRP-108 (吸入剤)	気管支喘息 治療剤	スカイ ファーマ社	ステロイド及び長時間作動型β作動薬の配合剤で利 便性やコンプライアンスに優れる	・スカイファーマ社とライセン ス契約(08年4月) ・国内Ph II 終了 (10年4月)

## その他の事項

・過活動膀胱治療剤「イミダフェナシン(一般名)」の口腔内崩壊錠

: 2009年12月 承認申請

# 開発品一覧②(2010年7月30日現在)

## POCプロジェクト(前臨床～Ph I)

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph I 準備中	Ph I (07年7月)	KRP-203	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調整剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ノバルティス社と ライセンス契約(06年2月)
	Ph I 準備中	KRP-110	オピオイド誘発性 便秘 難治性掻痒	自社	選択性の高いμオピオイド受容体拮抗薬。オピオイド鎮痛薬の鎮痛作用には影響することなく、副作用の便秘を改善することが期待される。また、種々の掻痒モデルにおいて掻き行動の抑制作用が確認されており、難治性掻痒の改善が期待される。	

## 導入品

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph II 準備中	Ph III (Merz社)	KRP-209	耳鳴	Merz社	NMDA受容体拮抗作用及びニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	メルツ社とライセンス契約 (09年11月) メルツ社:日本人を 対象とした米国でのPh I を終了(10年3月)

# 開発品一覧③(2010年7月30日現在)

## 導出品の状況

製品名・ 開発コード	導出先・ 共同研究先	開発段階	薬効	起源	備考
アルファガン/ アルファガンP	千寿製薬	国内PhⅢ (07年7月)	緑内障治療薬	米国 アラガン社	・アラガン社より導入 (ガチフロキサシン点眼液のクロスライセンス) ・千寿製薬に導出(04年5月)
ケタス	米国 メディシノバ社	海外PhⅡ (05年8月)	脳血管障害治療薬	自社	・多発性硬化症の適応での日本、中国、韓国、 台湾を除く全世界における独占的な開発、製造販 売権を供与(04年10月) 08年4月 PhⅡの結果を公表
KCA-757	米国 メディシノバ社	海外PhⅢ (気管支喘息: 06年11月) 海外PhⅡ/Ⅲ (間質性膀胱炎: 05年5月)	気管支喘息治療薬 間質性膀胱炎治療薬	自社	・日本、中国、韓国、台湾を除く全世界に おける独占的な開発、販売権を供与 ・間質性膀胱炎:07年1月に結果を公表、 開発を中断 ・気管支喘息:海外PhⅢ一旦停止
KRP-203	スイス ノバルティス社	海外PhⅠ (07年7月)	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	・移植用の免疫調整剤として、全世界の開発及び 販売権、自己免疫疾患及びその他の疾患用剤とし て、日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の 開発及び販売権(なお、炎症性腸疾患用剤とし ては、全世界の権利を留保している)を供与 (06年2月)



# 参考資料

# 2011年3月期第1四半期 セグメント情報

報告セグメントごとの売上高および利益又は損失

単位:億円

	売上高		セグメント利益	
	金額	対前年	金額	対前年
売上高合計	247	+14	22	△9
医薬品事業計	240	+15	21	—
◆新医薬品	208	+13		
○国内	202	+13		
○海外	6	+0		
◆後発医薬品	21	+3		
◆一般用医薬品他	10	△1		
ヘルスケア事業計	7	△1	△0	—
◆スキンケア	7	△1		
調整額	—		1	—

(注1)当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」を適用し、報告セグメントは【医薬品事業】【ヘルスケア事業】としております

(注2)上記内容は簡便的に前年実績を組み換え、当第1四半期実績と比較しています

# 2011年3月期第1四半期 業績の状況(連結)

(単位:百万円)

	中間期		通期		第1四半期(4月~6月)					
	09年度 実績	10年度 予想	09年度 実績	10年度 予想	09年度 実績	10年度 実績	前年差額	前年比	中間 進捗率	通期 進捗率
売上高	45,714	46,500	99,764	100,300	23,289	24,655	+1,365	5.9%	53.0%	24.6%
◆医薬品事業	44,115	44,791	96,421	96,567	22,485	23,955	+1470	6.5%	53.5%	24.8%
新医薬品	38,011	38,894	82,395	84,339	19,503	20,794	+1,291	6.6%	53.5%	24.7%
国内	36,733	37,575	79,766	82,560	18,910	20,167	+1,257	6.6%	53.7%	24.4%
海外	1,278	1,319	2,629	1,779	592	626	+34	5.7%	47.5%	35.2%
後発医薬品	3,584	3,611	8,642	7,647	1,829	2,145	+316	17.3%	59.4%	28.1%
一般用医薬品他	2,519	2,286	5,384	4,576	1,153	1,015	△138	△12.0%	44.4%	22.2%
◆ヘルスケア	1,599	1,751	3,342	3,733	803	699	△104	△13.0%	39.9%	18.7%
スキンケア	1,599	1,751	3,342	3,733	803	699	△104	△13.0%	39.9%	18.7%
営業利益	4,569	2,500	13,261	12,700	3,156	2,216	△939	△29.8%	88.6%	17.4%
経常利益	5,172	2,900	14,234	13,400	3,417	2,421	△996	△29.2%	83.5%	18.1%
当期純利益	3,293	1,700	8,848	8,500	1,976	1,799	△177	△9.0%	105.8%	21.2%

(注)上記内容は簡便的に前年実績を組み替え、当第1四半期連結実績および今年予想(中間期、通期)と比較しています

# 主な子会社の業績と予想について

(単位：億円)

キョーリン製薬	10年3月期 実績	11年3月期 予想	10年3月期 第1四半期実績	11年3月期 第1四半期実績
売上高	853	873	202	215
営業利益	131	123	34	20
当期純利益	95	84	25	17

キョーリン リメディオ	10年1月期 実績	11年3月期 予想	10年1月期 第1四半期実績	11年3月期 第1四半期実績
売上高	101	89	21	24
営業利益	4	2	0	2
当期純利益	4	1	1	2

ドクタープログラム	10年3月期 実績	11年3月期 予想	10年3月期 第1四半期実績	11年3月期 第1四半期実績
売上高	33	37	8	7
営業利益	△1	2	△2	△0
当期純利益	△1	2	△2	△0